

第4回 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議
議事要旨

日時：平成28年10月31日（月） 13：30～15：20

場所：八代市鏡支所3階 大会議室

■やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議 委員（敬称略）

八代市（会長）	副市長 永原 辰秋
八代市市政協力員協議会	会長 徳田 武治
八代商工会議所	会頭 松木 喜一
八代市商工会	会長 黒木 計
八代地域農業協同組合	代表理事組合長 田島 幹雄
八代地域農業協同組合	女性部長 前田 るい子
八代森林組合	代表理事組合長 西坂 栄樹
一般社団法人DMOやつしろ	総務企画課長 高田 剛志 ※代理出席
熊本県県南広域本部	総務部長 江藤 公俊
八代市金融協会	代表（肥後銀行八代支店 理事支店長）鳥巢 勉
独立行政法人 中小企業基盤整備機構	地域活性化支援チーフアドバイザー 西田 光宅
連合熊本県南地域協議会	副議長 谷村 幸治 ※代理出席
株式会社 エフエムやつしろ	代表取締役 多田 満
（欠席）	
八代漁業協同組合	代表理事組合長 宮本 義孝
中九州短期大学	学務部長 教授 川井 健次
一般社団法人 こども・子育てあいねっと八代	代表 澤井 美香

<配布資料>

会議次第・出席者名簿、席次表

会議資料1 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型・平成27年度事業分）の効果検証結果について

会議資料2 八代市総合戦略 平成28年度事業

会議資料3 八代市総合戦略の効果検証の進め方について

1. 開会

2. 説明

(1) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型・平成27年度事業分）の効果検証結果について

- ・会議資料1 説明（企画政策課）
- ・昨年度の地方創生交付金事業に係る効果検証結果について報告。

(2) 八代市総合戦略 平成28年度事業について

- ・会議資料2 説明（企画政策課）
- ・総合戦略に掲げる各指標値（重要業績評価指標：KPI）の進捗状況と現在の取組状況を報告。その後、委員から本市の総合戦略に基づく取組み等についての意見交換を実施。
- ・各施策の重要業績評価指標で、すでに目標を達成しているものについては、今後目標値の見直し等を検討する。

— 意見交換 —

○全国花火競技大会について。地元以外の観光客の内訳、経済効果、花火大会自体の魅力は持続しているのかの3点について教えていただきたい。

●平成28年度の観客数は昨年度並みの30万人。内訳については、観光ツアーバスによる市外・県外からの観光客は減ってきており、ピーク時は1万5千人超が、昨年は7,000人、今年は5,000人で右肩下がり。一方、有料の観覧席は、毎年席数を増やしており、今年は最前列のプレミアムシート（1席1万円×100席分）が発売して3分で完売。基本的には高額（5千円→3千円）なシートから売れていく。3年前には、クルーズ船で中国からお越しいただいたが、今年は、韓国、香港、台湾、タイの旅行会社に花火大会を含めた営業活動に出向き、結果、韓国から旅行会社2社の計300人の方がツアーで花火大会へお越しいただいた。これは新規のツアーによるお客様だった。今後も市外・県外だけでなく国外からの観光客も増やしていけるよう取り組んでいきたい。

花火大会の内容について、今回は震災復興祈願として、クラウドファンディングにより100万円の寄附が全国から集まり、1部と2部の間に余興として復興花火を打ち上げた。また、有料の観覧席を増やしたということで、オープニングとエンディングを通常よりも豪華に花火を打ち上げた。見所のミュージック花火については、年を追うごとに豪華な仕掛けとなっており、今回は昨年横幅250mを上回る400mのワイドなスターメインとして打ち上げを実施した。

経済効果については、10年ほど前は約10億円だったと記憶している。現在は、12億円を越える。今後も有料席や海外からの誘客、また来ていただいた方に地域の特産品等を買っていただくための努力を続けてまいりたい。

○非常に心配していることがいくつかある。定住促進とかUターンの目標などあるが、静かに進行しているのが跡継ぎが全部市外に出て行って、出て行った先で家を建てたからもう八代へ戻ってこないということ、老後に実家である家をどうしようかという話をよく聞く。ぼちぼちで良いので、跡継ぎ等が戻ってこないで空き家になるおそれがある家をデータ化していくなどし、できれば是非Uターンで戻ってきていただくような魅力ある施策を考えていかななくてはいけないのではないかと考えて

いる。

観光事業について、八代には何の観光があるのか、というのがいまいち無いので熊本市内等に観光客を取られていると思う。しかし魅力はたくさんあると思う。夢物語でもいいので、例えば、観光漁業ということで舟出浮きがあるが、世界中でヒットしている熊本出身の尾田栄一郎先生のワンピースというコミックの中に出てくるような海賊船をデコレーションした舟やキャラクターの衣装を着て案内するなど、海があるということを生かして、著作権の問題等はあると思うがきちんと許諾をとって、そういったセットを打ち出してみると外国のお客様等にも珍しくてうけるのでは。くま川鉄道も期間限定ではあるが、ワンピース号がうけて観光客が集まっている。あとは、八代版の球磨川くだりを定期的な観光として考えると面白いのではないか。鮎の遡上体験や、鮎を獲って河川敷や水島の万葉の里などでランチをするなど、定期的な観光があるよということでやってみては。山は五家荘があるので、海・山・川の3拍子で観光的な目玉ができるのではないかと思う。情報提供だが、田浦町か芦北町に仮面ライダーの原画を書かれている方がいらっしゃる。

保育関係では、放課後児童クラブに関して、八代市も一昨年条例を策定してあるが、認可保育園で自主事業として卒園児を対象にした児童クラブをしていたところはほとんどがやめている。なぜやめているかというと、条件が非常に煩わしく厳しすぎるため。認可保育園は空き部屋を使っており保育所の最低基準には合致しているため、わざわざそれを放課後児童クラブのために書類を出し直すなどの作業もあって非常に面倒。もし、条例を改正されることがあれば、放課後児童クラブの八代版の場合は、認可保育園で自主でやっているところは除くというような除外規定を設けていただくといいのかと思う。現在、自主事業でやっていた放課後児童クラブがやめてしまっているため、「待機児童」が増えているためご検討いただきたい。

●空き家の状況については、空き家バンクを進めようとしている。3ヵ年で市内の空き家の状況を調査して地図にプロットしている。今度はそれを具体的に提供できる場所はないかということで登録制度を設けている。危ない空き家が随分と増えてきており、この対策をどうするか、財産の問題もあって市が勝手に手をくたせないという所もあるが、市でもっとできるような仕組みを今つくっているところ。

●観光面については、震災後の復興支援ということで、委員のおっしゃったくま川鉄道や、人吉・球磨地域、阿蘇、天草、熊本市の県内5箇所限定で、尾田栄一郎さんが熊本市と提携をされて、それぞれの地域で限定のクラウドファンディング向けで、寄附に対してシールやファイルケース等のグッズを貰えるというような企画を始められた。また、阿蘇とくま川鉄道でラッピング列車があった。

本市では、今年度から一般社団法人DMOやつしろを立ち上げて、戦略的に観光・マーケティングなどをやっていこうということでスタートしている。インバウンド関係では、来年はクルーズ船も60隻～70隻くるかもしれないということで、そういう方々のために八代だけではなく、県南地域全体で観光客を迎え入れて、県南地域でお金を落とさせていただこうという戦略を考え、県にも音頭をとっていただいて、くまもと県南観光連携事業実行委員会というのを立ち上げて事業を行っている。

球磨川くだりや鮎のお話しについては、これから、地方創生交付金で坂本の道の駅の球磨川に面している方で、鮎のやな場などを活用する事業を坂本住民自治協議会が計画している。来年の解禁シーズンには楽しんでいただけるようになってくると思う。

観光面については、数多くの資源があるが、今のところなにか特化して集中的に投資するというのではなく、八代でしかできない色々なことを数多くの体験型のメニューとして増やして、今後5年後、10年後、海外からこられる個人旅行の方々にもターゲットを絞って展開していければと考えている。

●放課後児童クラブについては、今年1ヶ所増えて、委託クラブが27箇所、自主クラブが11箇所、

合計38箇所運営していただいている。ご指摘があったとおり、待機児童がいることも事実である。条例の改正についてのご指摘もあったが、制度上の問題もあるので検討させていただきたい。今後も出来るだけニーズに応えられるよう、待機児童が少なくなるよう、箇所数の増加や定員の増加などに取り組んでいきたい。

○基本目標1の「稼げる農林水産業の実現」のところで、イ草作付け面積の指標値が、現状517haで、目標値が平成31年に630haということで非常に厳しい数字が書いてあるので驚いた。だいたい昨年1年間で県下の面積が40ha減。イ草の最盛期、平成元年頃は畳表が4,500万枚ほどの需要があった。昨年は1,200~1,300万枚で、1/3以下に減少している。その内、中国産のシェアが6~7割、日本産が2割、そして工業畳が約2割となっている。年々洋風化で、畳表の需要減が甚だしい状況。毎年日中交渉ということで東京と中国で交互であって、中国政府や色々な業界・生産団体の方がいらしゃって話をする。しかし、この数字をみると、需要が減る中で非常に厳しいと思う。現在八代でイグサを作っている方についてはプロ中のプロ。最盛期には6,000haあったイグサ作付け面積も八代管内で600haを切るくらいになっている。現状キープだけはしていきたい。国・県においても色々な支援をしていただいている。

八代では、JAだけの数字をみれば、色々な事業を拡大等する中で、6年間やってきて、昨年度は245億円、今年は250億円を目標としてやっている。これについては、イ草から転換された施設園芸とか色々な作物があるわけだが、施設園芸については熊本県辺りには国の強い農業づくり交付金などを運用してある。今年は八代管内で30町ほど事業があった。露地野菜でレタスなどは気候の影響を受けやすい。県においても色々事業はされるが、追いついていない状況。国の強い農業づくり交付金とは別に、県や市に事業をお願いしたいと思っている。単棟ハウスのちょっと丈夫なもので、レタスやアスパラ、豆など作っていくことでより活性化していければと思っている。

また、若い方で、農業高校を卒業してすぐ就農される方はなかなかいない。しかし、いざ現場に入ってみると若い人がたくさんいる。IターンやUターンの方ではないかと思うが、若い方にも農業は儲かるという認識が芽生えてくれば、まだまだ農業は捨てたもんじゃないと思っている。中山間地と平地では違って、例えば坂本町ではアスパラを作られて、年金+100万円で行きましょうという考えでやっている。是非、強い農業づくり交付金以外の支援が身近であれば助かるし、より八代の一次産業、農業が発展していくのではないかと思う。イ草とは全く別の話になったが、イ草については維持していくのが精いっぱいと思っているが、いかがか。

●イ草について、最盛期は6,000haということで日本一の生産地であった。それがなぜ今日に至ったかという、中国産の製品が入ってきて特にござにした製品の価格が急に低下し、またイ草乾燥機についても石油価格が急騰したことなどがあいまって、イ草農家の収入が減り、一生懸命頑張っても売れないというイメージが定着してきたことから、離農される方が多くなってしまった。中国産の製品を打開するために、イ草のブランド化をしないといけないということで「ひのみどり」という新しい品種を作り県内で保護していたが、それもしばらくすると中国に出回ってしまった。中国産については、ロックアウトしようということで国にも呼びかけられたが、それはいけないということで、中国とは友好関係にお話し合いをして、日本でのシェアについては中国産イ草の枠を取り決める紳士協定で毎年交渉している。指標のイ草作付け面積の517の数字については増やそうとしているが、農業のハーベスターが今無いので、ずっと中古の機械を修繕しながらやっている。しかし、国のほうで補償が準備されたので新しいハーベスターが市場に出回れば、農家の方ももちょっと頑張っていくぞという方向性が見えると

思うので、数値的にはここ2～3年のうちに上昇していくのではなかろうかという思いで頑張っている。

農業の後継者については、後継者への支援は農林水産政策課で取り組んでおり、新しく就労される方には支援金を出している。それと、営農支援室という相談室を作っている。随時営農関係の指導もしている。夫婦でされれば、夫婦加算金というのを用意している。農業の中心となっていただく後継ぎの方にフォローしていくということで、頑張っていきたいと考えている。

●只今の就業の話については、顕著なところで、例えば郡築では非常に若い人が就農している。それを良くみると稼いで儲かっている。儲かっているから自分達もそこに残って農業をするという人達がかなりいるような気がする。それをもっと中身をみると、それぞれ色々な取組みをされている。一人ではできないから皆で何か始めようとか色々な取組みを進めながら、それに行政として支援できるような仕組みを作っていないといけないと思う。そういうことで稼げる農林水産業を作っていないといけないと思う。また、素生産をあげることに併せて加工については、生産したものをよそに持って行って加工して、そこに色々な価格が乗って逆に入ってきているというところもあるので、八代で加工ができていけば、単価が抑えられて逆に持っていけるというようなことで、フードバレーの構想と進めながらそういうこともやっっていかなければならないと思う。

○雇用の問題については、商工会議所でも産業教育振興委員会というのを作り、専門高校と事業所とのミスマッチをなくすための色々な交流を続けている。だいたい、八代で400人の高校生が卒業して、そこに対して地元企業が300数十人の求人をかけると地元に残るのが120人というのが大きな流れである。卒業生が減っていけば、これが逆転するということにもなっていく。UJIターンの対策を行政としてはどのような対策をとっておられるのか。また一方でインドネシアやフィリピン、ベトナムなどからの農業研修生がいらっしゃって、建設業協会でも人がいないということで視察に行ったりされる。これから、きつい仕事等については受ける人がいないという切迫した状況になってくる。また、子ども達は、一回は外に出てみたいという気持ちも強いわけで、UJIターン対策をいかに積極的にやるかということと、都会に出ていきたいということで八代よりも熊本市内、博多、東京・大阪に出て行くわけだが、八代市外の子で八代に行きたいという気持ちを持っている子もいる。その場合は、企業は社宅が必要になる。八代には空き家対策をはじめ、空き家が非常にたくさんあるということで、これらをうまくマッチングすると、企業も助かるし、移住にも繋がる。新卒の高校生やUJIターンへの対策がこれから必要だと思う。

観光については、昨日舟出浮きに行ったが、非常に満足できるものでもったいない気がした。市が、行政がやるとなると全般的にやっっていかなければいけないから、それぞれそこそこにやるとそこそこの結果にしかならないということでもあり、何か足りないというものがたくさんあって、集中してやると、地の利を得た八代だから数多くの所から人がやってくるのではないかと思う。一方でそれを担う漁協の方々の数も少ない、魚もだんだん獲れなくなっているとか色々な問題があるようだが、どこに集中してやっっていくかというのものもあるが、ある程度集中しないとこれからの時代の観光というのはいまよくないのではないのかなと思う。

花火大会については、内容が随分変わってきたということで、ツアーバスも減ってきているとのことだが、身の回りでは地元の人あまり行かないで、ほとんどが外部から日帰りで来ているようなので、これも花火の内容も含め長期的に戦略を考えないとだんだん飽きられて、たった29年で30万人もくるようなイベントになったというのはすごいことだが、これが峠になっていくのではないかなという気がしている。是非、戦略的に長期的な視点で、更に維持・拡大させることをしていかなければいけない

のではないかと思う。

また、先ほどの舟出浮きも民間活力を引き出すような戦略会議をしないと行政だけでやるというのは大変なことで、是非広域的にやれるようなことで考えればと思う。

それから、クルーズ船の急増については、来年70隻を越えるような船がくるということで、蒲島知事においては将来は300隻というような話も公式の場であった。一方で八代においては、10隻くらいであれば対応できていたものも、70隻ともなると大変なことで、県も本腰になってくると思うが、八代と管理者である県との立ち位置とかその辺をよく考えていただきたい。バス対策も大変。一年先の予定も決まって、中はぐちゃぐちゃで安く引き受けるような小さな事業者もあって、これをきちんとしないと、なかなか続かないのではないかという、数多くの課題を抱えている。是非地元とWIN=WINの形になるようなことを組しておく必要があるのではないのかなと思う。

●地場の企業と市内の高校生の間を取り持つ所をひとつ作って、きちんとギャップがない形で穴埋めするような仕組みづくりを来年度からしていこうということで、来月にはその準備委員会を立ち上げる。高校生にはインターンシップをメインとした事業をして地場の企業をもっとよく知ってもらい、そしてその事業所がどこに重きをおいて事業をやっているか、どういった所に一生懸命やっているかを見ていただく。地場の企業さんにとっては、高校生にもっと自分の企業の魅力を伝えていただくというような事業展開をやっていく。社団法人を立ち上げ、全国から公募したコーディネーターを一人雇い、企業と市内の高校生の間を取り持つような形をつくり、少しでも地元の高校を卒業した子ども達が地場の企業に残っていけるようにしていければと思っている。この事業は、最初は八代市を中心として始めるが、軌道に乗ったら定住自立圏である氷川町、芦北町まで広げて、更に県内の大学・高校にまで広げていって、県内から逆に八代市の企業に行きたいというようなところまで、市内の地場の企業の魅力を伝えていければと考えている。更には、最初はインターンシップという一つの項目で始めるが、委員がおっしゃったUJIターンの県外に出て既にお勤めの方にとって、ふるさとの企業を知っていただくための体験の意味を込めたインターンシップや、体験就業みたいなものを先々は考えていければと思う。

舟出浮きに関しては、体験された方には良かったなと思っていただけるが、乗ってみるまで体験するまでその良さがわからないということで、更に後継者の方もどんどん減っており、今は実質活動している方は一桁しかいらっしやらないという状況。非常に危機的な状況で、一番若い方でも40代前半の方で後継者もなかなかいない。何とかしないとけないと思っているが、思案に暮れているというのが正直なところ。ただ、八代市の観光の魅力の一つであるから、今後も失くさないようにしていきたい。

花火大会に関しては、ツアーでのお客様よりも個人やグループで見に来られる方のほうが増えてきている、シフトしたのかなという感覚がある。ただ、きちんとした分析はしていない。DMOやつしろの中で、マーケティングをする部門も立ち上げるので、過去の方も含めてきちんと分析をしていきたい。

クルーズ船に関しては、来年には70隻ともいっているし、ほとんど県北のほうへ出かけていっているため、来年度からもっと県とも連携を深めながら対応をしていきたい。

○高校卒業後の県内就職率について、テレビで見かけたが、26位で福岡県、34位に大分県、2位に富山県、3位に石川県。なぜ、富山県辺りで高校生が県内に残るのか。その理由として、県が学校と連携して一週間でも体験させてやる、そして地元で楽しかったというそういう経験が大事なんだそう。これが唯一の選ばれる鍵になる。会社を信頼し、徐々に先輩・後輩の繋がりを持って県内にいるということに繋がる。体験させるということが一番だそうなので、一週間くらい体験させると良いのでは。

- インターンシップについては、短期・中期・長期と3つに分けて実施予定。
- まさに今日午前中に、定住自立圏の氷川町・芦北町と会議をして一緒にやりましょうという話しをした。今までは、ただ見学させるというインターンシップだったが、おっしゃるようにもう少し長く企業にいて仕事してもらって、魅力を見てもらう、それを今度は子ども達の言葉で発信してもらうという形をつくり、それをコーディネートするような事業をしていこうというのが、今からやろうとしているもの。実際人材をものすごく求めているもなかなか地元の企業とマッチングができていないという、その辺のギャップをどうやって埋めていくかということが、これからしていかないといけないことだと思う。子どもは今どうしても都会に行きたがる。都会にも会社を持つ大きな企業では、都会で研修させて、将来地元である八代で働いてもらうとか。逆に、かならず地方の工場などに行き、その後本社に戻るといったパターンもあって、その辺にヒントがあるのかなと思う。

(3) 八代市総合戦略に係る効果検証等について

- ・会議資料3 説明（企画政策課）
- ・これまで、総合戦略の効果検証のための会議を年1回開催予定としていたが、交付金事業についての効果検証作業が必要であるため、3～4月頃に交付金事業の効果検証のための会議を開催することとし、併せて年2回の開催とする。

3. 閉会

委員の皆様やご所属の団体様からご意見やご提案などがあれば、「意見等提出票」かメールにて事務局までご提出いただきたい。また、次回の推進会議は、3月～4月頃の開催を予定しているため、通知にてお知らせする。